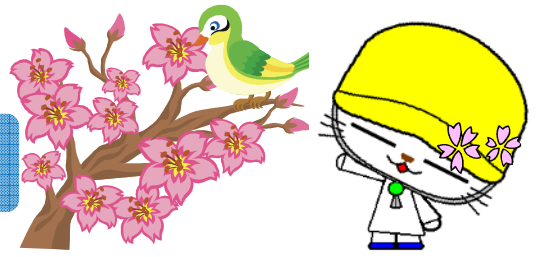


船輪

第129号
2012年 4月発行



船輪は(公財)伏木富山港・海王丸財団の機関誌です

退任の挨拶

常務理事(船長)
中村 保博



昨年3月27日、吹雪の妙高上越を夏タイヤで駆け抜け、小雪舞う富山へ入った。その吹雪がその後の私の富山勤務を暗示しているものとは、その時は思いもなかった。

海王丸へ勤務してみて、初めて違和感を覚えた。一部の乗組員の言動が、40余年航訓と日本丸財団で経験してきたものと違っていった。自分が長年船員として培ってきたやり方で船務を遂行したところ、彼等から猛反撥を受けた。この状況では安全が確保できないと判断し、交代の船長が来るまで総帆展帆・海洋教室等の諸行事を一切実施しないと決め、その旨航訓へ連絡した。昨年4月下旬のことである。

その後、紆余曲折を経て今日に至っている。

元来、船内の人的問題などは船長にとって些細なことである。片方が下船すれば片がつく。

自分は少年の頃から運命論者である。人の人生には本人の尽力以外に、もっと大きな何か作用していると思っている。船長職を経験し、この思いは更に強くなっている。そして、こういう状況こそが、船長にとって本当の意味で“大変なこと”であり、“困難なこと”なのである。

200名近い実習生・乗組員と共に運命共同体員として海上にある時、自分の尽力をはるかに越えた所で決められる“運”によって救われたことは1度や2度ではない。

しかし、今思うに、何ゆえ“天”はこの老船長の最後の勤めを“有錆の尾”としたのか？この歳でもまだ不完全な自分を矯正しようとしての教訓なのか？それとも、自分を富山勤務として、……なのかな？

その答えは、そう遠くない日に啓示される気がしてならない。

1年という短期間ではありましたが、ヴォランティア・財団・あの状況下でも私を支え続けてくれた乗組員……の皆様のお蔭があったからこそ、海王丸第34代船長として職務を全うすることができました。ありがとうございます。心から厚く御礼申し上げる次第です。皆様のご健勝を祈りつつ……さようなら

海事課長(一等航海士)
須賀 達彦



このたび3月31日付けで財団を去ることとなりました。平成22年4月に着任以来、皆様には大変お世話になり、誠にありがとうございました。2回目

の富山県での勤務は公私ともにたいへん充実した日々となりました。総帆展帆でボランティアの皆さんと再会した時は、帰ってきたなあと思うとともに大変心強く感じました。今後とも海王丸への御支援・御協力をお願い申し上げます。

この2年間で印象に残っていることは海王丸の上架修繕工事の準備作業です。パークから普段見る海王丸は、とても美しいのですが、海面より下の部分は乗組員では簡単に修理できない箇所であるため、長い間十分な整備をすることができませんでした。一般的には造船所で上架、簡単に言うと船を修理場へ閉じ込めた後にポンプで周りの海水を抜いて修理します。海王丸の場合、一般公開されている区域がキレイなだけに、修繕工事が必要なのかと思われる方が多いと思いますが、人間と同じで定期的に人間ドック(造船所)に入れて、検査や治療(修繕)を行うことが健康(安全)を保つために重要です。海王丸の保存活用に大きなご支援をいただいている富山県や射水市職員の方々には修繕工事に対するご理解をいただき、深く感謝申し上げます。工事が完結するまで立会いたいところですが、わがままになりますので、後任また船長はじめ財団職員の方に託して去りたいと存じます。

また一方、私事です。赴任後まもなく富山県で長男が誕生し、2歳近くまでこの素晴らしい環境で一緒に暮らせたことは大きな喜びでした。おかげさまで乗船勤務では経験できない貴重な時を過ごすことができました。

これからはまた、航海訓練所での仕事に戻りますが、船の厳しさや楽しさ、自然の雄大さを通して、世間の荒波を乗り越えられるような若者を育てて行きたいと思っております。今後はボランティアとして総帆展帆への参加や入渠中の海王丸の姿を見に来たいと考えております。

最後になりますが、貴重な経験を与えてくれた海王丸、そして財団の大きな柱である展帆事業を支えてくださるボランティアの方々に感謝を申し上げ、退任の挨拶とさせていただきます。

特別公開

海事課 業務技師
佐藤 敏夫

ボランティアの皆さんお元気ですか？私は三月末をもって退職いたしました。

三年前に富山に来まして、慣れない一人暮らしで、色々苦勞もあ



りましたが、今思うとそれはそれで気ままな暮らしだったと思います。

色んなところを観光し、温泉も沢山行きました。富山の良さを再認識いたしました。

中でも上平村の岩魚のにぎり寿司は絶品でした。それに以前から一度は行って見たかったダム湖になる所から引き揚げられた荘川桜を見たときは感激しました。もう行く所はないくらいです。

最後にボランティアの皆さん、大変お世話になりました。ありがとうございました。

いつまでもお元気で……。

海事課 技術員
鎌田 広志

平成21年4月に着任してから早いもので3年の月日が経ち、この度航海訓練所に戻る事になりました。この富山県勤務の3年間で私は嬉しい出来事、辛く



悲しい出来事があり、命の大切さ 家族の大切さを改めて感じる3年間でもありました。

この海王丸がこの美しい富山県でいつでも美しくいてもらいたいと思います。3年間、大変お世話になりました。ありがとうございました。

海事課 技術員
増井 友貴

皆さんお元気でお過ごしでしょうか。富山に来て2年が経ち、なんとか任期を終えることができました。

富山ではボランティアの皆様への海王丸に対



する想いを感じ、色々と勉強させて頂きました。また私生活においては、休みの日は毎回外出し、立山や五箇山、氷見など、富山の色々な場所を観光したり、富山のご当地グルメや白エビ、ゲンゲなどおいしい海産物を食べたりし、毎回忙しい休日を過ごせました。この2年間色々な経験をし、たくさんの思い出を残すことができました。

最後になりますが、2年間ありがとうございました。また富山に来る機会がありましたら、よろしくお願ひします。



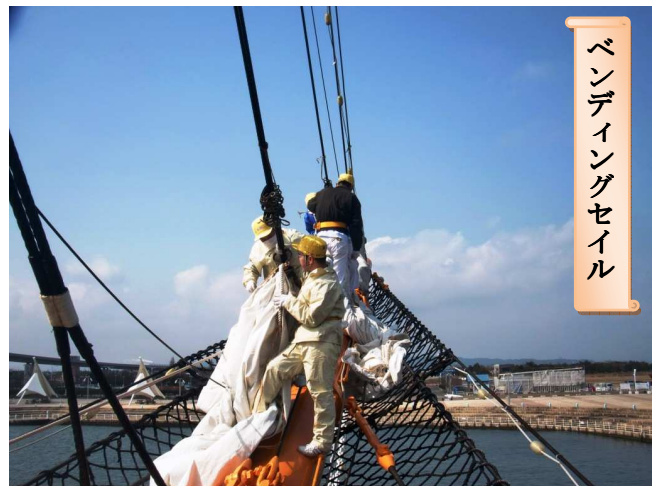
特別公開

進水記念イベント

2月12日には「海王丸進水記念イベント」と銘打ち、海王丸の82歳の誕生日をお祝いしました。上記の特別公開の他にも海王丸船長による「海、船、港の話」や特製海王丸チョコレートの配布を実施しました。たくさんの来船者に恵まれ、にぎやかな進水記念日とすることができました。これからも海王丸を末永く宜しくお願いします！

ベンディングセイル

3月3日、4日にベンディングセイル（帆の取り付け）を行いました。まだまだ寒い中の作業でしたが2日間で延べ34名のボランティアの方々の協力を得て、無事に取り付けを終えることができました。春からの活躍に向けて海王丸は着々と準備が進んでいますよ。ご参加いただいた方々には厚く御礼申し上げます。



ベンディングセイル

4月～6月の行事予定

宿泊研修

今年もいよいよ総帆展帆の時期が近づいて参りました。ウォーミングアップにボランティア宿泊研修に参加しませんか？操帆や登しょうの基本を確認することが目的ですので、特に久しく参加されていない方やボランティアになって間もない方は是非どうぞ。もちろんベテランの方も大歓迎ですよ。日時等は下記の通りです。平成24年度も皆で良いスタートをきりましょう！！

「ボランティア宿泊研修」

日時：平成24年4月14日(土)13時00分
～15日(日)11時30分
1泊2日(夕・朝食付)

参加費：1500円(食費等)
集合場所：海王丸第一教室
内容：登しょう、操帆、甲板作業、懇談会等
その他：「日帰りで参加したい」「遅れて参加したい」などご要望のある方は早めにお問い合わせください。可能な限り対応致します。

※注意

参加申し込みをいただいた方には、事前に食事の手配をいたします。申込後に都合が悪くなりキャンセルされる場合は、必ず前日までにご連絡願います。連絡なくキャンセルされた場合は、食事代金をお支払いいただくこととなります。ご了承ください。

【午前・午後両方への参加が難しい方へ】

総帆展帆日は通常、午前・午後を通して展帆ボランティアの皆さんにお手伝いいただいております。しかし「午前(あるいは午後)しかスケジュールが空いていない。」という方や「体力的に1日参加はつらい。」という方も多々いらっしゃるかと思います。海王丸としましては**午前もしくは午後のみのご参加も大歓迎です。**「途中で帰るの悪い気がして・・・」などというお声も聞きますが、どうぞ遠慮なさらずに半日だけでもご参加ください。

事前におわりの場合は返信はがきにその旨をお書き下さい。お弁当が不必要な場合は、その旨も一筆いただければ幸いです。

【登しょう礼への参加について】

海王丸では毎年「海の日」を記念して総帆展帆前に「登しょう礼」を行っています。これは乗組員(海王丸においては展帆ボランティア)がそれぞれヤードに取り付き、一斉に礼を行うというもので、帆船の最高儀礼のひとつとされています。

今年もできるだけたくさんの方の展帆ボランティアの方々にご参加いただき、立派なものにしたいと考えています。しかし、全員の息を合わせる必要があるため練習が不可欠です。そこで**平成24年度登しょう礼への参加を希望される方は総帆展帆③・④の昼休みと7月1日(日)に実施する練習に少なくとも1回は必ずご参加ください。**

たくさんのご参加をお待ちしております！！

総帆展帆①～④

4月から6月の間は以下の日程で総帆展帆を行う予定です。皆さんの参加、お待ちしております！！受付時刻や集合場所は従前通りです。(9時00分より日本海交流センターで受付開始。10時00分海王丸第一教室にてミーティング。)

総帆展帆①・・・4月22日(日)
※平成24年度最初の総帆展帆です！

総帆展帆②・・・5月4日(祝)
※連休中日、同日ちびっ子天国開催。たくさんのお見学者が予想されます！！

総帆展帆③・・・5月27日(日)
※梅雨入り前最後の総帆展帆(平年値参照)
※「海の日」に向けてチアリーダー選出
登しょう礼練習あり

総帆展帆④・・・6月17日(日)
※「海の日」に向けて登しょう礼練習あり

新規養成訓練①～③

下記の日程で新規ボランティア養成訓練を実施予定です。皆さんの周りにも興味をお持ちの方がいらっしゃれば、是非声を掛けてみて下さい。日程についてはできる限り柔軟に対応します。

新規養成訓練①4月7日(土)・8日(日)

新規養成訓練②5月19日(土)・20日(日)

新規養成訓練③6月23日(土)・24日(日)

【展帆参加者減少対策アンケートについて】

展帆ボランティアの参加者減少をうけて昨年実施しました表記のアンケートは集計が完了いたしました。実に150件の貴重なご意見をいただきました。現在この結果をふまえて対策を検討中です。ご協力、誠にありがとうございました。

ボランティア掲示板

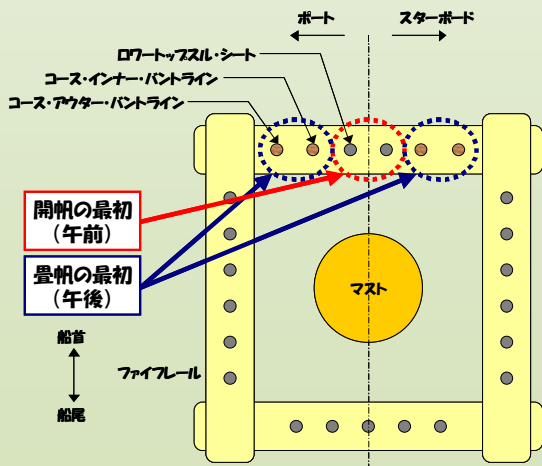
今回はベテランボランティアの方（男性・匿名希望）からいただいた投稿記事を紹介しします。特にボランティアに参加したての方は必見ですよ！

海王丸展帆方法・私の場合

海王丸ボランティアに参加して10年以上が経過しました。ここで一度、これまでに培った私の展帆スキルの棚卸しをして今後の活動につなげたいと思い、ペンを取りました。ビギナーの方は参考にさせていただき、ベテランの方からは叱咤激励をいただければと思っております。

展帆作業にあたり最も注意すべき点は2点あると考えています。1つ目は安全に作業を終えるということ、2つ目はお互いの協力がないと成り立たない作業であるということです。ヤード上の作業ではお互いの作業速度の違いで移動の渋滞が発生したり、新種の結び方を発見したりしますが、重大な事故につながらないならばここは寛容に過ごします。私の好きな逸話で「ワシントンと桜の木」というのがあります。アメリカ初代大統領になったワシントンは少年時代に、お父さんが大切にしていた桜の木を斧で切り倒しましたがお父さんは怒りませんでした。なぜか？ワシントンはまだ斧を持っていたからです！これは冗談としても、そういった事故の可能性を十分認識しておくべきです。

さて、展帆に対する心構えができたところで実際の作業ですが、ビギナーの方はいろいろビレイピンが多すぎてどれから作業すればよいかわからないかも知れませんが、一番最初に作業するのは展帆時であれば横帆はロワートップスルのシート、畳帆時であればコースのバントラインです。いずれもマストファイブールの船首側にありますのでここを確実に押さえておきます。



ロープを解いたらアンサーバックですが、全てを復唱する必要はなく、「スタンバイ・ポート・シート・サー」だけで十分です。それでも不安な場合は反対側のアンサーバックを聞いてから回答します。アンサーバックは言い間違えると恥ずかしいという気持ちがあって最初は声が出ないものですが、慣れてくると次第に快感に変わっていきます。

ホールタイの号令でロープを引っ張りますが、この時も大きな声で「せーのっ！」と故意に叫んでから引っ張ります。これはホールドオンで作業が停止して、再開する時にも有効で、もし間違っ引張ろうとした場合でも航海士や乗組員がすぐに気付くので安心です。

そして「ビレイ」の号令でビレイしますが、通常は前から2番目の人がストッパーを取りに行きます。ロープを放すことに不安を覚えますが一人で引っ張っているわけではないので問題ありません。先頭の人は慌てずに確実にビレイしましょう。このように先頭付近では任される仕事が多く、得られる達成感は大きいです。

あとの作業はピン配置図をよく眺めておき、次のオーダーに備えます。シュラウド側のピンの多さに混乱しますが、バントラインはブルズアイというガイドを通っているのを目印にして目的のピンを見分けます。

ここまでできるようになったら、アテンドのようなニッチな？作業を探します。とかくハリヤードのような大作業に目を奪われがちですが、それだけでは展帆できません。むしろ脇役作業の方こそ競合が少なく、自分が活躍できる場になります。その中でぜひとも覚えたいのがヘビーブレースのストッパーです。この作業ができる人は少なく、「誰か止めて〜！」という状況をよく見かけます。ここで颯爽とストッパーを取る、これできれば完璧です。ただ、この作業はロープにストッパーを巻くという特殊作業を予め覚えておく必要があります。

以上が私の展帆スキルになります。10年以上参加している覚えたつもりでも、展帆作業に参加する度に反省することが多々あります。ボランティアの減少が叫ばれていますが、ボランティア同志で共感し、達成感のある展帆作業にできればと思っております。私も今回、この資料を作成して新しい発見がありました。お互いに切磋琢磨してスキルアップを図り、楽しく活動していきましょう。

あとがき

海王丸パークをまっ白に覆っていた雪も嘘のように溶けてなくなってしまいました。かわりに植物や虫たちがにわかに活気づいてきたようです。

さて、我らが海王丸も厳しい冬のなか着々と整備を進め、これからの諸行事へ向けて準備万端です。3月10日から公開も再開しています。皆さんも近くへお越しの際はぜひパークへお立ち寄りください。

(松)

舵輪 第129号
発行日 2012年 4月
E-mail
by-the-wind@
kaiwomaru.jp

(公財)伏木富山港・海王丸財団
〒934-0023 富山県射水市海王町8番地
TEL 0766-82-5181
FAX 0766-82-5197
URL <http://www.kaiwomaru.jp>